

第四回「地域と共生する超小型モビリティ勉強会」
議事録

1. 日時

平成 29 年 6 月 21 日（水） 16 : 00～18 : 00

2. 場所

経済産業省別館第 312 会議室

3. 出席者

鎌田 実 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

石田東生 筑波大学システム情報系社会工学域 教授

中條芳樹 名古屋大学未来社会創造機構 高齢社会エキスパート

国交省 自動車局（事務局）、都市局、道路局、観光庁

環境省、経産省

自治体（横浜市、さいたま市、東京都）、民間各社 等

4. 勉強会議題

- ① 第三回勉強会時の試乗・デモの公開用動画について
- ② 運営規約の改正について
- ③ 超小型モビリティの市場性・事業性について
- ④ 中小・ベンチャー企業から見た超小型モビリティ制度の課題

5. 議事要旨

- ・ 事務局、自動車メーカー、リモノから議題に沿って発表を行い、意見交換を行った。
- ・ 事務局から、年内目途で超小型モビリティのコンセプト及び求められる周辺環境の整備の方向性を取りまとめることを提案し、了承された。また、これらを運営規約に反映させることについても了承された。
- ・ 自工会から市場性・事業性について説明したところ、原動機付自転車等からの市場を見込むならば維持費等を軽自動車と比較するべきではないのではないか、郊外や高齢者の移動の足としてのニーズや中山間地における可能性を検討すべきではないか等の指摘があったが、大手メーカーが都市部に市場を見出していることには理解が示された。
- ・ リモノから、ベンチャー企業から見た制度の課題について説明し、開発・生産と事業性の観点では、ベンチャー企業では初期投資を抑えるという点で大手メーカーと異なることが共有された。

以上